

研究会	GIARI 定例研究会
テーマ	第 3 回国際シンポジウム「東アジアにおける経済統合と持続的発展」 プレシンポジウム
報告者	浦田秀次郎（アジア太平洋研究科教授） 深川由起子（経済学研究科教授） 松岡俊二（アジア太平洋研究科教授） 司会：浦田秀次郎
日時	2009 年 11 月 9 日(月) 18：30～20：00
場所	早稲田大学 19 号館 710 号室
参加者	天兒慧(アジア太平洋研究科教授)、黒田一雄(同教授)、トラン・ヴァン・ トウ(社会科学研究科教授)、横田一彦(商学部准教授)、栗田匡相(アジア 太平洋研究科助教)、GIARI 助教、各フェロー、院生など、計 20 名。

1. 会議の趣旨

アジアにおける地域統合の現状や将来展望について考えると共に、現在のアジアの抱えている発展格差や環境問題の現状を確認し、その問題の解決に向けての方策について議論を深める。特に、アジア諸国の持続的経済発展の実現に向けた協力という枠組みでの政策について参加者で議論する。経済統合の重要な目的は、統合を進めることによって持続的な経済発展が実現できるとの考え方に基づいて議論する。(浦田)

2. 報告概要：

まず、経済統合の実態を確認し、なぜそのような状況になっているのか議論する。次に格差問題、環境問題を取り上げ、最終的にはこれらの問題に対する協力によって地域統合が進み繁栄が実現できるのではないかと、との方向性を目指す。(浦田)

1) 浦田秀次郎『経済統合の現状』—資料①(PPT)参照

- 「東アジアの貿易、投資、そして地域統合」：デファクト(De facto)地域統合。東アジアにおける貿易、投資、地域統合の動きを統計を用いて分析する。
- 「地域統合の新たな潮流と東アジア」：デジュレ(De jure)地域統合。変化する東アジアにおける地域統合の形態を分析し、将来を展望する。
- 「韓国の FTA 政策と制度的発展」：東アジアにおける地域統合という観点から実態を明らかにする。韓国の FTA の現状(同時多発的 FTA 推進)、国内制度改革との関連(成果および問題点)を議論する。

2) 深川由起子『発展格差問題』—資料②(PPT)参照

- 全体の問題意識：FTA と国内開発戦略との連動の意味合い・方策を考える。東アジア経済発展の特徴はグローバリゼーション下の経済成長モデルと「時空の圧縮」(雁行形態の

溶解、政府介入の余力減少)、即ちグローバリゼーションと国内格差の問題である。FTAによる経済発展と産業調整能力(格差なき成長)、国内問題の大きさに還元される。

- 争点：国内格差の拡大メカニズム、域内格差問題(先発国と後発国間)、自由化と産業調整能力強化、自由化と域内協力の強化。国内に関しては産業調整能力を高め、域内に関してはできるところから協力していくという点を議論する。
- 「ASEAN と東アジアにおける発展格差」：後発国が不利な点を看過せず、どのように取り込むのかを本格的に議論する。
「東アジアの地域統合と CLMV 諸国における産業クラスター政策」：後発国の適切な産業クラスター政策と自由化の相互関係について。プロコンの議論も予想される。
「中国における所得格差問題」：都市部と地方の格差問題。グローバル化と格差拡散問題に焦点を当てる。産業調整能力という観点からのコメントが予想される。

3) 松岡俊二『アジアにおける環境協力とサステナビリティ』一資料③(PPT)参照

- 目的：環境協力のどのような形ができつつあり、その中で面的広がりをもった地域の環境ガバナンスがどのように形成されているのか。どのような地域協力と問題があるのか。デファクトの緩やかな協力関係は様々だが、フォーマルに制度化された地域環境ガバナンスという面での環境協力はヨーロッパと比べると稀少なため、これらの点について議論する。
- 問題意識： i)国際的な開発援助による国際環境協力、特に日本がアジアに対して行ってきた環境 ODA などの評価。 ii)アジアにおけるマルチの国際環境レジーム、国際環境制度の状況をグローバル、リージョナルな側面に焦点を当てて議論する。(論点：環境ガバナンスを中心に成長と環境の関係、アジアにおける開発の特徴と環境ガバナンスの特徴の関連性、国際環境制度の有効性と経済レジームとの関係、共同体と環境ガバナンス等)
- 「アジアにおける経済成長と持続性：効率的環境ガバナンスの形成」
「アジアにおける環境協力と環境技術」
「アジアにおける環境協力と多国間環境協定」

3. 質疑応答

- (横田) アジアにおける海外直接投資による実質的統合。アジアにおけるデファクトの部品貿易をもたらしている一番の要因は日本の海外直接投資。部品貿易に依拠するアジアの貿易構造と完成品貿易を中心とする世界の貿易構造は異なるという点に留意すべき。
- (浦田) デファクトをもたらしている根本的要因はアジアにおける多様性ではないか。世界金融危機が生産ネットワークを通じてアジアに被害をもたらしている実態をみる必要がある。地域内の域内依存度を高めれば今回のような危機は避けられるかもしれない。
- (天児) ①デファクト自体が質的に変化しているのでは。その辺の説明がほしい。デジュレと言った時に何がデジュレなのか。アジア地域統合で全体が見えるような形の説明が必

要であろう。

②地域統合の光と影。光を経済発展で、影を格差の拡大と環境問題でみるという枠組みはクリアである。影の部分で議論する時に自由化を積極的に進めるための条件をつくるプロセスとして「小さい政府」を考えるのかどうか。影をどうするのか。アジアにおいては政府のイニシアティブ、政府の課題になる。これは「大きな政府」につながるのではないか。光と影を議論する時、その主体をどういうふうにか考えるかという議論も必要である。

③環境ガバナンスの議論をする時、ガバナンスというのがどのレベルの話なのか説明がほしい(グローバルガバナンス、リージョナルガバナンス、ローカルガバナンス、コミュニティガバナンスのレベル)。経済統合の議論の中のガバナンスの位置づけ・定義をクリアにするべき。

(浦田) ①デファクト市場統合についての質的变化: 企業内取引(閉鎖的取引形態)→企業間取引、企業内+企業間市場統合も取り入れる形で統合が進んでいる。

②デジュレについての質的变化: バイ(2国間)FTA→(中国 ASEAN FTA)→リージョナルFTA、東アジア全体を包摂するFTAが議論されるようになった。制度の中身の変化。

③規制緩和、制度の統一(円滑化の一部)、政府の関与の仕方も変化、より取引をしやすい環境を作る政府の役割。自由化を進めることによって統合を進める形もあれば、制度統一のような政府が関与する形で統合を進めるという形もある。

(天児) 成長拡大における問題の解決として、成長を促進させながら分配の配分でより公平さを目指すのか。または、成長は抑えてでも、公平、分配のほうに重きを置くのか。成長推進の政策と分配の部分の推進の政策をどのように考えていけばいいのか。グローバル化が進んでいく中で、公平さや格差の縮小を目指す新しい戦略・政策は何かを打ち出して頂きたい。

(深川) 政府の役割というよりトランスナショナルな話。アジアに関しては、まだ成長しながら分配を改善していくことに対するコミットメントが主流。ただ、高齢化が最大の格差拡大につながる可能性があるため、グローバル化と高齢化の両方に備えて分配を確保すべき。政府の役割(産業政策、相対的に分配政策は弱い)→原則自由で規制緩和は進む、社会保障の準備、産業調整能力。政府の役割: 「産業政策」→「産業調整政策」に変わっていくのが大きい。地域間格差、国内の部門間格差が両方出るのでややこしい。国と国との格差、新しいモデルでどうするのか、国の中での格差を分配で政府がどのように調整するのか、それぞれ違う話。

(松岡) 環境ガバナンスにおいてどういったレベルがあるか:

開発ガバナンスと環境ガバナンスの関係を光と影という形で切り離す視点も重要だが、統一的に理解しながら、実際の各問題の特性の中でどのような解決ガバナンスが作れるのか問われるべきである。

(天児) 課題解決型ガバナンスではなく、地域統合の議論の時は、アジアの中で経済成長が

進み格差が広がっていくダイナミックな社会変動の中で、どのような形の新しい秩序形成を目指すかに焦点を当てる。そこにもっていけるかどうか地域統合論になる。この点に留意すべきである。

(黒田) 空間軸(格差の問題)+時間軸(サステナビリティ)で良く練られたプログラム。

高等教育におけるインプリケーションという視点からコメント：

①第一セッション：学生間の交流では日中韓がドミナント、反対に政策的統合がなく ASEAN が先行、そこがもとになって日中韓でアジアの枠組みを考えていく現状。日中韓で先に議論をするということはあるのか、そういった議論の意味合いは何か。

→(浦田)日中韓 FTA の構想は既にあるが進まない現状。内的要因として、経済的な障害が要因で政府が躊躇。外的要因として、ASEAN 側の躊躇(リーダーシップ要因)。

②第二セッション：雁行形態の溶解は、どのような形で溶解しているのか。産業の在り方の変化によって溶解するとしたら、具体的にどのような次のモデルがみえてくるのか。

→(深川)国として制度化するしかないのだが、国が産業集積のメカニズムが違う地域を抱えている(アジアの新しさ)ので、ヨーロッパの緩やかな統合とは全く違う問題がある。一部の産業集積だけ見ると雁行形態は溶解しているが、国ごとにみると変化はそれほどないという難しい問題。

③第三セッション：環境におけるグローバルガバナンスと地域ガバナンスの関係についての議論が必要である。どのような関係性が議論すべきでは。

→(松岡)補完性原理をガバナンスでいう時、地方自治体が主体でナショナルな政府が補完。人々の生活に近い場でガバナンスを考えていき、できない部分を補完としてナショナルな政府、グローバルなガバナンスが担う。アジアの場合は、グローバルな国連の環境条約があつてそれを地域の中でリージョナライズする中で地域間の環境協力が進むという側面もあるので、それがヨーロッパと異なる特徴なのかは考えていきたい。

(トラン) 後発国が貿易の自由化の中でどのように追いついていくか。「自由貿易の罨」、即ち、後発国が持っている優位構造が自由貿易に入ると固定化する側面をどうするか。また中国のインパクトをどう扱うか。後発国は、幼稚産業の育成能力をどのように高めていくかが大きな課題。後発国の **capacity building** に対する地域協力問題を考えるべき。

(栗田) 産業クラスター政策が C L M V にとって持続可能な経済発展の戦略になり得るのかを主に議論する。国内格差と国家間格差の問題に焦点を当てる。

文責：金ゼンマ(GIARI 助教)